



明けましておめでとぅございませす

気の早い話ですが、今年の流行語大賞は「平成最後の〜」になるでしょうね。さて、いよいよ五月から新元号になります。「平成」の文字が披露された時の記者会見は今でも鮮明に覚えています。次は何になるのでしょうか？「大安」、「蜜蔵」など仏教要素の詰まったものになって欲しいです。

この時代を生きる

良啓

「現代は混迷の時代」などと形容されますが、この言葉に疑問です。なぜなら、戦争や問題の無い時代など有史以来一度もありません。二千五百年前のお釈迦様は、大多数の人がその枠組みの中で重圧を受けていたカーストと言う身分制度と闘いました。千二百年前のお大師様は、閉塞した奈良仏教に希望を見出せず、入唐し真言密教を学びました。現代は、ITの凄まじい進歩により便利な世の中に発展した一方、人としての温かみが欠如した人種が増え、非人間的な事件や報道が増えています。どの時代にも困難な出来事が無くなった事はありません。

さて、密教では、全ての事象には両面があると教えています。例えば、善と悪は物事の側面であり、どちらも本質的には同一です。見る人、時代、タイミングにより善は悪になり、逆もまた然りな訳です。大切な事はバランスであり、一喜一憂せず、全てを否定せず、受け入れる事。そこから始める事です。現代人の悪習の一つが表面的な（ネット情報など）側面だけで良し悪しを判断しています。そうではなく、まずは受け入れてみてください。もしかししたら、自分の浅はかな知識や食わず嫌いに気が付くかも知れません。

さあ、新元号まで残りわずかです。良い一年にするのは、あなたの心ひとつです！



身近にある仏教語①

裕俊

私達が日常的に使っている言葉の中には、仏教に関係している言葉がたくさんあります。そんな言葉を由来と共にご紹介させていただきます。

尼（あま）

尼とは、女性の出家者を指す言葉です。尼さんというと、なかなか皆様の身近にはいらっしゃらないかもしれませんが、TVなどに出演される有名な尼さんといえば瀬戸内寂聴さんがいらっしゃいますね。寂聴さんを存じ上げない方でも、大河ドラマなどで武家の女性が出家し、尼さんになるシーンというのを見たことがあるのではないのでしょうか。尼という言葉はインドのアンマーという言葉を書写したものだそうですが、このアンマーという言葉、沖縄の皆様非常になじみのある言葉ではありませんか？県出身バンド、かりゆし58のヒットソング「アンマー」で知られているように、沖縄では「お母さん」という意味で使われている方言ですが、インドでも同じ意味で使われていたそうです。遠く離れたインドと沖縄で同じ響き、同じ意味の言葉があるというのは非常に興味深いですね。

